

2019年 春学期

社会科・公民科教育法1 第11回

**授業デザイン論(2):
単元計画と評価規準について**

学習指導案の書き方について

第10回 授業デザイン論(1): 単元観と発問の機能

第11回 授業デザイン論(2): 単元計画と評価規準について

**第12回 授業デザイン論(3): 配布資料の作成と板書計画の
検討**

**第13回 学習指導案の検討・作成: 相互チェックによる
学習指導案の改善**

冊子は各自で読んでおいて下さい。
次回までに分からないところを書いてくること。

今日の授業の目的共有

スポーツのようなイメージで、
単元計画や評価観点・評価規準の
意義を理解すること

今日の「振り返りジャーナル」 について

テーマを自分で設定すること

**※必ず、一番上の行に「～～？」という、
問いを立ててから書き始めてください。**

**※それ以外の感想なども
プラスして書いてOKです。**

今日の授業の目次

導入

フックトークの時間(15分)

【授業】

1. ゴールに至るプロセスのイメージを大切に
2. 単元計画はなぜ必要なのか？
3. 評価観点はなぜ必要なのか？
4. 練習のための練習か？試合のための練習か？

・振り返りジャーナルの時間

ブックトーク(今日は15分で)

1. 斉藤の本紹介(1分)
2. 期限までに発表者数名の本紹介内容に対して、**2名分を選んで感想レポートを提出してください(200字と**オススメ本**)**
3. 今週の「ブックトークの情報共有ネットワークの構築プリント」を配ります。

今日の斉藤の2冊

本の表紙
(授業時のみ)

本の表紙
(授業時のみ)

飲茶「史上最強の
哲学入門」

塚田・長峯「増量 日
本国憲法を口語訳し
てみたら」

一日10分でも良いので読書が続けてみよう

発表者が読みたいと思う本を工夫して薦めるように

この授業の目指すコンセプト

1. 学びの「遊び感」を大切にする。
2. 学びの目的意識(≒納得感)を共有することを大切にする。
3. まだ知らない自分自身を再発見し続ける。振り返る。
4. 他者から学ぶ(チームを組む)×リットを実感する。

自分でも気を付けます。

授業やいます

【復習を兼ねて】

**ゴールに至るプロセスの
イメージを大切に**

ゴールを見通した展開部分にする。

主発問を提示

展開部分

補助発問
①を提示
↓
解決

補助発問
②を提示
↓
解決

補助発問
③を提示
↓
解決

【ゴール】主発問の答えを生徒が説明
できるようになる。

ゴールを想定した流れに

※結果として、「永続的な理解」に対する認識が問われる。
ゴールがぐらつくと授業もぐらつく。

事例：宮崎県のきゅうい栽培

主発問

なぜ、宮崎平野では、旬ではない時期にたくさんのきゅういを全国に出荷しているのだろうか。

①なぜ、宮崎平野では、キュウリの生産がさかんなのだろうか。

宮崎県は日照時間が長く、冬でも温暖である。暖房の燃料費が削減できるので、促成栽培のコストが削減できる。

②なぜ、旬ではない時期に出荷するのだろうか

キュウリは夏が旬。冬は生産量が減り、供給量が減る。その結果、冬はキュウリの値段が上がり、高い値段で取引できる。

③なぜ、全国に出荷することができるのだろうか。

交通網の発達や保冷設備が整ったことによって、輸送時間の短縮や大量輸送による輸送費の削減、鮮度の維持が可能になった。それに伴い、全国への輸送が可能となった。

【まとめの例】

従来より、宮崎県はキュウリ栽培に適した気候条件にあり、冬でも安価に栽培をすることが可能であった。高速道路等の配備などが進み、輸送時間のコストが削減できるようになった。その結果、今では、宮崎県の地の利を生かして、高いキュウリを大量に栽培し売る促成栽培の方法がとられるようになった。

今回の学習指導案・模擬授業の導入について

1. **生徒役は3～4人程度、模擬授業の時間は5分にします。**
(最初の一分間で趣旨説明をしてください)
2. TとSの表記や、「発問○」などの表記を用いて、生徒の発言を沢山予想する。(サンプルなどを参考に)
3. 教師役が話し過ぎない。生徒に発言してもらって導入と板書を作る。
4. 前時の復習は導入では基本的にしない。
5. 導入でグループワークをするのは避ける。(取り入れるとしても、20秒程度ペアで話し合うくらいに留める。)
6. 生徒に主発問のような疑問を持たせられるような導入が望ましい。

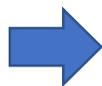
**単元計画は
なぜ必要なのか？**

改めて、単元とは？

- ・ 関連する数回の授業を一まとまりで捉えた繋がりのこと。
- ・ 中学公民の教科書だと、節(章より小さい括り)がそれに該当する場合も多い。

一時間の授業を通して考え続ける主発問・繋がり

一時間の授業
の導入



一時間の授業
の展開



一時間の授業
のまとめ

一単元を通して考え続ける「単元を貫く問い」と繋がり

一時間の
授業



一時間の
授業



一時間の
授業



一時間の
授業



一時間の
授業

単元を貫く問い

1. 単元を貫く問い

- ① 単元を通して追究できるものであること
- ② 学問的な学びにつながり、社会の形成者の育成にも寄与するものであること
- ③ 生徒に単元全体の学習に見通しを持たせ、探究したいと思わせることができるものであること。
- ④ 各授業の主発問を導くものであること
- ⑤ 単元全体を振り返る際に、機能するものであること。

内藤(2015)より

単元の流れを意識してみよう①

授業例「桶川のまちづくり」の授業の流れ

- ① 桶川ってどんな町？
- ② まちづくり(シミュレーション)
- ③ まち探検にむけて
- ④ 桶川駅東口の商店街のまち探検
- ⑤～⑦ まち探検のまとめ(ワークショップ)
- ⑧ 桶川市職員によるまちづくりの講義
- ⑨ NPOからのマニフェスト講義
- ⑩⑪ マニフェスト型の街づくり提案の立案(話し合い)
- ⑫⑬ プレゼン資料作成
- ⑭⑮ プレゼンテーション

単元の流れを意識してみよう

1. ワークシートの「地方自治と路上喫煙ポイ捨て禁止条例」の授業展開を自分なりに区分け、位置づけて、いくつかの授業のまとめい・流れを作ってみる。
2. 全体の流れに合う「単元を貫く問い」を考えてください。
3. ペアでお互いの解釈を説明し合います。

単元のつながいを分析する視点

単元の内容に客観的で唯一正解な繋がい方があるというよりも、**自分なりに単元の繋がいや一貫した視点を見いだせること(解釈できること)の方が大切。**

⇒「教科書の節の内容」や「指導要領の内容」の中に「**自分**の面白い流れ・問い」を見出す・解釈することが重要

【思考の転換】

- × 教科書に書いているから、この順番で教えているだけ
- **教科書に流れにある程度沿いつつ、全体を繋げる面白い流れを見つけ出す** (その流れや問いを見つけ出すのは教師自身)

参考資料の配布

教師自身の自主的・主体的な カリキュラムデザインのプロセスと視点

(神奈川県内の公立高等学校A教諭の場合)

**評価観点が
なぜ必要なのか？**

評価観点とは何か？

皆さんの得意な競技・趣味のレベルを

高めるために必要な能力は何ですか？

書き出してみてください。

評価観点とは何か？

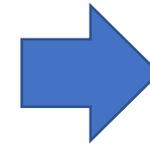
囲碁の例

勝負強さ

盤面全体を見通す
大局観

基礎的な読みの力

定石に関する知識



試合に勝つ
ため

社会科の場合

社会的事象への
関心・意欲・態度

社会的な
思考・判断・表現

資料活用
の技能

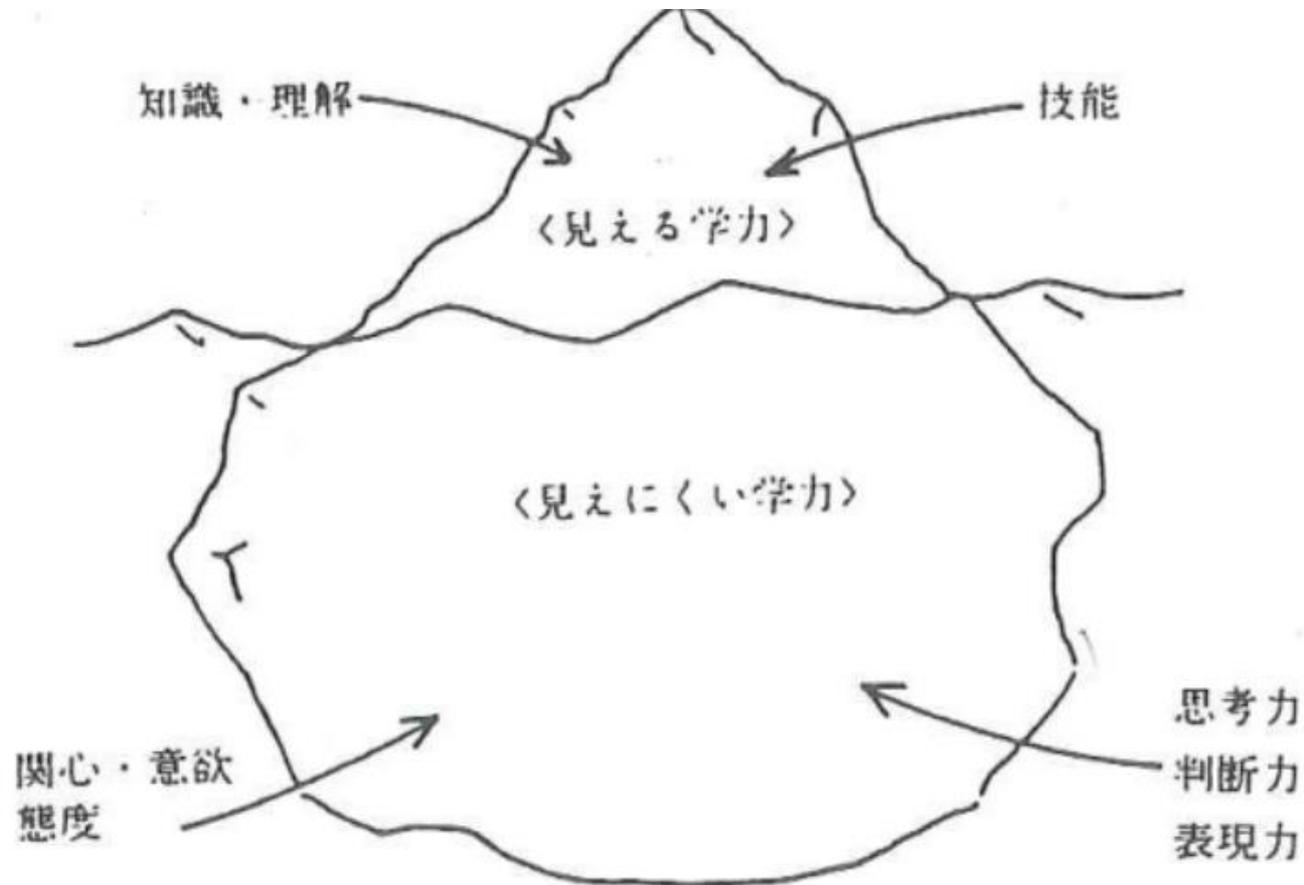
社会的事象について
の知識・理解



社会認識を
通して、公民
的資質を育
成する

抽象的な目標を具体的に捉える

学力の冰山モデル



梶田叡一(1994)『教育における評価の理論 | 学力観・評価観の転換』金子書房, より

学力の樹モデル



志水宏吉(2011)『学力を育てる』岩波書店. よい

評価規準とは何か？

社会的事象への**関心・意欲・態度**

社会的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、よい社会を考え自覚をもって責任を果たそうとする。

社会的な**思考・判断・表現**

社会的事象から課題を見だし、社会的事象の意義や特色、相互の関連を多面的・多角的に考察し、社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に判断している。

資料活用の**技能**

社会的事象に関する諸資料から有用な情報を適切に選択し、効果的に活用している。

社会的事象についての**知識・理解**

社会的事象の意義や特色、相互の関連を理解し、その知識を身に付けている。

該当箇所を埋めてみよう

- 詳しくは、配布した『**評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校 社会】**』の該当箇所を参考にすること。
- 該当箇所を選んで、といてあえず埋めてみる。
- 文章の**文末表現を維持する**ことが大事。
- 文章の前半部分は、各自のこだわりに応じて、**修正してよい**。

7. 単元の評価規準

評価の観点	評価規準
社会的事象への 関心・意欲・態度	
社会的な 思考・判断・表現	
資料活用の技能	
社会的事象についての 知識・理解	

評価規準は各時間の重点目標の ようなもの

- ・毎時間、まんべんなくすべての能力を養うことはできない。
- ・その中でも、特に注目する評価観点を選び、その状況を見取る。

※各時間に育てる全ての能力を見取る必要はない。

8. 単元の指導・評価計画（○時間扱い）

時	ねらい	学習活動	関	思	技	知	評価規準
1 本 時				○			思評価規準・・・
2							
3							

「実現状況を判断する際の、具体的な生徒の姿」

- 評価観点に対応するように意識して書く。(文末表現など)
- フォーマット上では、「観点」と書かれている欄を「思」「知」「技」「関」などに書き換える。

(2) 実現状況を判断する際の、具体的な生徒の姿

【「現代社会の見方考え方」「知識・理解」の場合】

	十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	努力を要する (C) と判断した生徒への具体的な手だて
知	決まりを守る意味に留まらず、「個人の尊重」「みんなが納得して決める」との言及から、決まりの意義を踏まえた記述であると判断できる。	決まりを守ることによって、私たちの生活が成り立っていることを記述している。	次時の最初に、前時の振り返りとして、「十分満足」「おおむね満足」と評価した生徒の記述を紹介する。可能であればコメントを求めたい。

【「日本国憲法と基本的人権の尊重」「思考・判断・表現」の場合】

	十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	努力を要する (C) と判断した生徒への具体的な手だて
思	身体の自由が制限されることによって派生する多岐に渡る問題にまで気づき、適切に表現している。	法律により表現の自由が制限されることと、それによって身体の自由が制限されることになることを述べている。	自分たちにとって失われては困る自由を挙げさせ、自由権には身体の自由、精神活動の自由、経済活動の自由があることを確認し、次に身体の自由が制限されることによって生ずる問題点を具体的に挙げさせ、それを分類させることから考えさせる。

今後の学力モデルは三観点へ

育成すべき資質・能力の三つの柱

学びに向かう力
人間性等

どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか

学びを人生や社会に
活かそうとする学び
に向かう力・人間性
等を涵養

「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を
総合的にとらえて構造化

生きて働く
知識・技能の習得

未知な状況にも対う
できる思考力・判断
力・表現力等の育成

何を理解しているか
何ができるか

知識・技能

理解していること・できる
ことをどう使うか

思考力・判断力・表現力等

練習のための練習か？

試合のための練習か？

要素主義への懸念

・4つの観点が要素化(個別に独立して、バラバラになる)すると、何のために、その四つの観点を育てているのかが不明確になる。

・単元を通して、答えさせたいような問いを考えると良いと思います。

※メニューをこなすこと自体が目的になると、活動全体の目的を見失う。

課題設定の質的レベルの違い

課題のレベル	社会科における具体例
「知っている・できる」レベルの課題	歴史上の人物や出来事を答える。 地形図を読み取る
「分かる」レベルの課題	扇状地に果樹園が多い理由を説明する。 もし、立法、行政、司法の三権が分立していなければ、どのような問題が起きるかを予想する
「使える」レベルの課題	歴史上の出来事について、その経緯と様々な立場の声を紹介し、その意味を論評する歴史新聞を作成する。 ハンバーガー店の店長になったつもりで、駅前のどこかに出店すべきかを考え、企画書にまとめる。

学んだ知識を人生の中での 問題解決に活かすには？

『真正の学力』= 本物の学力 という考え方

**具体的な文脈や状況を豊かに含み
込んだ本物の社会的実践への参画と
して学びをデザインすれば、学ばれた
知識も本物となり、現実の問題解決
に生きて働くのではないか。これが
オーセンティックな(真正の、本物の)
学習の基本的な考え方である。**

(奈須, 2017)

本の表紙
(授業時の
み)

フレッド・M・
ニューマン著
『真正の学び／学
力』(2017年訳)

本の表紙
(授業時の
み)

奈須正裕
(2017)
『教科の本質を
見据えたコンピ
テンシー・ベイ
スの授業づくり
ガイドブック』

パフォーマンス評価とは

**ある特定の文脈のもとで、
様々な知識や技能などを用いて、
行われる人の振る舞いや作品を、直
接的に評価する方法**

**松下佳代(2006)『パフォーマンス評価:子どもの思考と
表現を評価する』日本標準.**

パフォーマンス課題の事例 「国際シンポジウムで提案しよう！」

【以下は、横浜市内の中学校で実践された事例です】

あなたは、平和を守るための調査や研究をしている政治学者です。ところが、20世紀の初めから世界のいろいろなところで戦争が起こるようになりました。第一時世界大戦、第二次世界大戦と規模が大きく犠牲者も多く出た戦争が二度にわたり起こったため、世界に向けて「なぜ戦争が起こるのか？ どうすれば戦争を防げるのか？」について提言するレポートを作成することになりました。

その前に、関係したそれぞれの国の研究者とシンポジウムで意見交換することになります。あなたもそのメンバーとして世界平和に役立ち、「なるほどなあ・・・」と思わせることができるような発言をしてください。

本の表紙
(授業時のみ)

三藤・西岡(2010)
「パフォーマンス評価にどう取り組むか—中学校社会科のカリキュラムと授業づくり」より

大学入試改革の動向について

河合塾のHPより資料等を掲載

(授業時のみ)

【重要】次回の授業について

【前提として】

- 既に指導案を書き始めて見た上で、分かりにくいところを念頭に置いて、次回の授業に臨める方が良いと思います。
- ぜひ、何が分からないかを明確化させておいてください。

【フィードバックシートの記入について】

- 以前に『学習指導案の書き方に関する考え方』（「冊子」と略称）を渡したと思います。
- それに関して、来週の授業で「『冊子』に対するフィードバックシート」にメモを書いてきてください。
- 授業中にそれを基に話し合いを進めてもらいます。
- 簡単な手書きで構わないので、最低2点以上、気になった項目をメモしてきて下さい。

今日の「振り返りジャーナル」 について

テーマを自分で設定すること

※必ず、一番上の行に「～～？」という、
問いを立ててから書き始めてください。

※それ以外の感想なども
プラスして書いてOKです。

第 11 回 社会科・公民科教育法 1

授業デザイン論(2)：単元計画と評価規準について

氏名 () 所属学部・学科 ()

1. 単元計画を分析する

以下の表に8回の授業のまとまりをつくり、その位置づけを自分の言葉で書くこと

(寺本誠「地方自治と路上喫煙ポイ捨て禁止条例」の授業)	
授業の展開	単元内のまとまり・流れ
第1時 千代田区が生活環境条例を制定し、路上喫煙とたばこのポイ捨てを規制するに至った背景を探ることで、路上喫煙の問題を身近な問題として考える	
第2時 千代田区の「生活環境条例」が地方自治の原則に基づいて制定されていることを理解するとともに、「生活環境条例」の具体的な内容を様々な観点から分析する。	
第3時 千代田区と文京区の路上喫煙・ポイ捨てに対する対策を比較することを通して、文京区の「安全・安心まちづくり条例」の特徴について考える。	
第4時 「生活環境条例」制定に対する賛成意見と反対意見を対比することで、「生活環境条例」に対する自分なりの考えをまとめる。	
第5時 路上喫煙を「ルール」で規制する千代田区のケースと「マナー」に頼る文京区のケースを比較しながら、路上喫煙問題を解決するためには、どちらのケースが妥当であるかに関して自分自身の意見をまとめる。	
第6時 文京区防災案内課長への質問書の内容を検討することにより、路上喫煙及びポイ捨てに対するクラスの意見をまとめる。	
第7時 文京区の職員の話聞き、職員と対話することにより、行政と協働しながら、自分たちの街を創造する態度を持つ。	
第8時 タバコに関する生活問題の他に、文京区に存在する身近な生活問題を探ることを通して、それらの問題を解決していくために自分は何をすべきかを考える。	
この8時間の流れにふさわしいと思う、「単元を貫く問い」とは？	

【ペアの人から出た解釈】

2. 自分の好きなスポーツ（趣味）のレベルを高めるために必要な能力は何ですか？

(雑多に書く)

河合塾ホームページより

(<https://www.kawai-juku.ac.jp/highschool/admission-sympo/admission-test-2018/>)

平成 30 年度（2018 年度）大学入学共通テスト導入に向けた 試行調査（プレテスト）分析

世界史 B

〔分量・難度〕

試験時間は 60 分。大問数は 5 題。

第 1 回試行調査に比べて、ページ数が 10 ページ減少しており、問題の分量が多かったという点が改善されている。ただ、分量が減ったとはいえ、資料の読み取りや何段階かのステップをふむ複雑な問題が増えたことなどから、時間的な余裕がない生徒もいたのではないだろうか。センター試験と比べるとやや難化している。

〔特徴・指導〕

センター試験が歴史事象そのものを問うのに対して、試行調査の問題は歴史事象の背景・経過・結果などを問う問題が多い。また、固有名詞を排除して問おうとする傾向や、図版・資料文・グラフなどが本格的に取り入れられている。1 題解くのに複数の資料を活用しなければいけない問題が多く、様々な出題形式が採用されており、センター試験より複雑である。

また「授業において生徒が学習する場面」や「社会生活や日常生活の中から課題を発見し解決方法を構想する場面」が盛り込まれている。前近代史と近現代史、欧米史とアジア・アフリカ史の比率は、センター試験とほぼ同じであった。

今後、基本的な歴史的知識が必須であることは変わらないものの、それらを習得する際に、その歴史事象に関連する図版・地図・グラフ・資料などを活用して、その背景や原因、結果や影響、様々な事象の縦のつながり、横のつながりなどに注目した学習が必要となる。また、それぞれの時代の時代像を身につけ、個々の歴史事象との関連を意識したり、こうしたタイプの問題を演習し、慣れておく必要がある。

日本史 B

〔分量・難度〕

試験時間は 60 分。大問数は 6 題。

第 1 回試行調査と比べ、ページ数は 36 ページから 30 ページに減ったものの、設問数は 30 から 34 へ増えた。センター試験と比べると設問数は同程度だが、史料・図版・地図・グラフ・統計表などの資料をふんだんに使用しているため、分量は実質的に増えたと考えられる。また、読解力を求める設問が多く出題されている。難度は、第 1 回試行調査と比べると設定の複雑な設問が少なくなったため、やや易化したと思われるが、センター試験と比べるとやや難化している。

〔特徴・指導〕

前回と同様に社会科教育的な手法を用いた設問や、時代についての異なる評価を考察させる設問なども出題されており、「歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視」する姿勢が強くなかえ、全体的には思考力・判断力を問う、意欲的な作問になっている。

基本的な知識を身につけることの必要性は変わらないが、今後は、日常的に資史料の読解力を養うことや、多面的な解釈が可能な資史料については、生徒自らが主体的に考察する姿勢を身に付けることも重要になると考えられる。

地理 B

〔分量・難度〕

試験時間は 60 分。大問数は 5 題。

第 1 回試行調査に比べ、地形図などの図が減ったことや、場面設定が整理されたことにより、問題冊子のページ数が 6 ページ減少したが、設問数は同程度。センター試験と比べて、分量の変化は僅かである。問題形式等で新しい部分もあるが、基本的にはセンター試験との違いはほとんどなく、難度はほぼ同程度。

〔特徴・指導〕

場面設定として学習成果を学校の文化祭で発表するために作成した「展示資料」が利用されたり、センター試験でもみられる「会話文」が用いられたりすることが多い。また、第 1 回試行調査よりもページ数が減ったこと、場面設定、思考力を問う際の出題意図が伝わるような問題文と選択肢の関係がさらに練られたことにより、試験時間と設問数のバランスはより適切となった。

事項・事象の単純な暗記にとどまらず、事象について因果関係を理解する力、資料を判読する力、事象や地域を比較・分類する力、資料などを分析した結果を文章や図表で表現する力など、思考力・判断力・表現力を付け、伸ばすために、様々な事象に興味を持っておく必要があるだろう。

現代社会

〔分量・難度〕

試験時間は 60 分。大問数は 6 題。

第 1 回試行調査と比べて設問数が大幅に増えており、「設問数が少なく受験者の正答数の分布に影響した」ことに対する改善への動きが見られる。2018 年度センター試験と比べて、全体の設問数は 36 から 31 へと減少しているものの、ページ数が 11 ページ分大幅に増加し、問題を解くために提示されている情報量は格段に多くなっており、全てを時間内に解答するには素早い情報処理が必要だろう。ただし、知識が必要な設問の中には、センター試験でほとんど扱われてこなかった設問がある一方、ほぼ常識的な知識事項もあり、全体としてみた場合、センター試験と大幅な難度の変化はない。

〔特徴・指導〕

センター試験同様、教科書を通じて獲得される知識をもとに解く設問も、形式にこそ違いはあるものの、数多く出題されており、また知識があることで正解が確定しやすくなる設問も見受けられた。その一方で、特定の知識ではなく読解力やその場での判断力の試される設問がセンター試験以上に多く出題されている。その中には、かなり高い思考力の必要なものも見受けられた。与えられた資料や掲げられた文章・会話を読み取った上で選択肢を絞らせる問題も多いので、情報を読み取り判断する力の習得につながる練習が必要となる。また、試行調査の問題は、センター試験と比較して大きく変化したように見えるが、実質的に問われている内容に変化がないものも少なくない。したがって、センター試験（過去問）を用いた演習も有効であると考えられる。

倫理

〔分量・難度〕

試験時間は 60 分。大問数は 4 題。

2018 年度センター試験と比べ、全体の設問数 36 から 32 へは減少しているものの、ページ数は 35 から 38 ページと増加した。問題を解くために提示される情報量が多く、時間のかかる設問が増えている。ただし、瞬発的に解答できる知識型の設問も組み込まれていることから、全体分量はセンター試験と同程度と考えられ、難度もセンター試験と比べて大きく変わらない。

〔特徴・指導〕

出題形式は、当てはまる選択肢を全て選択させる問題や任意にテーマを選ばせるタイプの問題、特定の著作の内容の順序を並べ替えさせる問題など、新しいものが多い。また、問題を解くための情報を提示し、それらを組合せつつ思考・判断させようという意図の設問がみられる一方、従来通り教科書を通じて獲得される知識をもとに解く設問も多く出題されている。

先哲の考え方を確実に習得するなど、教科書的な知識を定着させることが前提となる。その上で、与えられた資料や掲げられた文章・会話文を読み取った上で選択肢を絞らせる問題がみられるので、情報を読み取り判断する力の習得につながる練習を積ませることが必要となる。また、試行調査の問題は、センター試験と比較して大きく変化したようにみえるが、実質的に問われている内容に変化がないものも多い。したがって、センター試験（過去問）を用いた演習も有効であると考えられる。

政治・経済

〔分量・難度〕

試験時間は 60 分。大問数は 4 題。

2018 年度センター試験と比べて、全体の設問数は 34 から 30 へと減少しているものの、ページ数が 28 から 42 ページへと大幅に増加し、それぞれの問題を解くために提示される情報量は多くなった。難度はセンター試験と大きく変わらない。大問冒頭の本文が見られなくなるなど、センター試験と比べて出題形式が大きく変化したように感じられるかもしれないが、各設問を解くために用いる知識に大きな違いはない。

〔特徴・指導〕

設問の多くは学習の過程を意識した問題の場面設定を重視したものとなっている。

他の公民科目と比較して、全体に占める知識問題の割合が高い点や、センター試験と同様の形式の設問も多く取り入れられている点が目につく。見た目の新しさがあるものの、従来型の知識問題を変形して出題しているものも少なくない。解答する上で必要な多くの情報を示し、それらをじっくりと考えさせることを意識した設問もみられるが、その一部においては、教科書の知識を正確に習得してさえいれば、丁寧に資料や文章を読み取らずとも正解を導くことのできる設問もある。政治・経済に関する概念や理論を確実に習得するなど、教科書的な知識の定着を前提としつつも、与えられた情報を読み取った上で選択肢を絞らせる問題がみられるので、適切に読み取り判断する力の習得につながる練習を積むことが有効だろう。センター試験と同様の形式の設問も少なくないことから、センター試験（過去問）を用いた演習も有効であると考えられる。